

獨混八七旅醫榮三號

昭二二二八

調製官

陸軍軍醫大尉眞岡修

獨混八七旅團

陸軍

# 衛生史編纂資料

獨混八七旅團

## 第一、終戰直前、部

### 一、部隊行動概要

一、兵團ハ湖南省柳縣附近ノ要衝ヲ占據シ來陽以南廣<sup>東</sup>省  
 境ニ至ル南部粵漢線ノ重要兵站線、通信線、飛行場、重要  
 物資源ノ確保ニ任スルト共ニ活潑ニ討伐ヲ實施シ治安、離  
 持民心ノ收攬ヲ計リアリタリ。

二、八月七日頃ヨリ兵團警備地區東北正面ヨリ暫編第一軍攻  
 撃シ來リ兵團ハ之ヲ邀撃テ激戦一週間ニ及ヘリ

三、八月十七日停戦ノ報到着セリ

四、兵團ハ一は號作戰ノ計畫ニ基キ來陽方面ニ逐次兵カヲ集  
 結スヘシ諸般ノ準備ヲ進メタリ

二、患者發生ノ狀況

ノ自八月一日至十五日ノ間發生セル患者左ノ如シ

區	分	員	數
戰	死	五	八
戰	傷	死	
戰	病	死	一
戰	病	死	七
計	病	死	六
	病	死	三
	病	死	六
病	名	員	數
マ	ラ	リ	了
			四
赤	痢		五
脚	氣		三
結	核		一

又八月十五日現在入院患者數(柳井患者寮養所)

(納谷奥・東京)

其ノ他	七
計	八三

患者輸送ノ状況

(1) 兵團内ニ患者收療機關トシテ、柳縣患者療養所一ヶ所有シ、アリンノミニシテ、隸下各部隊ヨリ該療養所ヘノ患者ノ輸送ハ、ハニ―三日ヲ要シタリ、カフルニ輸送路ハ山間ノ小蹊ニシテ、二人伍ヲ漸ク通スル程度ナリシヲ以テ、患者ノ輸送ハ相當ノ困難ナル狀況ニアリタリ

(2) 七月末柳縣患者療養所ニ收容シテ、アリン患者ハ約五〇〇名ナリキ之等患者ノ後送ハ、ハニ號作戦ノ計畫ニ基キ、自動車ヲ以テ逐次來陽及衡陽方面ニ後送シ、八月十五日ニ於テ八十三名ヲ餘ス程度トナリタリ

(3) 入院ヲ要セサル輕症患者並ニ病兵ハ兵團ニ於テ保育隊ヲ編成シ、ハニ號作戦ノ計畫ニ基キ、八月下旬ヨリ逐次來陽方面ニ前

進セシメ以テ兵團ノ交搏作戰ヲ容易ナラシメ得ル如ク準備セリ  
三防瘧疾防疫ノ状況

ハ防疫ノ状況

ハ兵團警備地區ノ状況ニ氣候ヨリレ防疫ノ重點ヲ腸管系意  
性傳染病特ニ赤痢ヲモテ防疫ニ指向セリ

之カ爲メ高級軍醫會同ニ於テ防疫施策ヲ教育指導セル  
外コレヲ防遏計畫並ニ防疫實施並ニ綱ヲ以テ防疫實施ノ  
細部事項ヲ示シ隷下部隊ニ之ニ基キ幹部以下注意之ク  
具現實行ニ精勵セリ

ハ對民衆防疫ニ關シテハコレヲ豫防接種ヲ實施セル外情報  
隊ト協同シ傳染病情報ノ蒐集ニ勉メタリ

ス防疫ノ状況

柳縣附近ハ中國ニ於テモマラリア浸侵ノ地トシテ有名ナリ

マラリアノ種類ハ「熱多ク七月頃ヨリ逐次熱帶熱増カノ傾向

(結谷貞・京東)

ヲ示シタリ、西回熱ハ殆ト發生ヲ見ス

防瘧ノ徹底ハ各級幹部ノ最モ關心セル所ニシテ、兵團防瘧計

畫ニ基キ五月頃ヨリ防瘧工作ヲ實施シアリシモ敵情ノ悪化故帳

ノ補給ノ遅延ヲ以テ治療藥ノ不足等ノ諸因子累カシ兵團内

ニマリア患者ノ多發ヲ見就中初年次兵ノ罹患者ニ重篤ナル

症状ヲ呈スルモノヲ見タリ

#### 四、健之兵對策ノ状況

ハ特別訓練兵保育ノ状況

四月兵團防成ト共ニ特別訓練隊ヲ各部隊毎ニ設置シ、兵團

特別訓練隊規定ニ基キ軍醫將校ノ醫學的監理指導ノ

下ニ之ク保育適正ヲ期シタリ

ハ號作戰實施ニ方リ兵團保育隊ニ括收容シ部隊行動

開始ニ先立チ之ヲ前進セシメタリ

又一般兵保育ノ状況

軍隊保育要領ニ基テ兵團保育規定ニ於テ保育ノ細部事項ヲ示シ之ニ基キ各部隊ハ保育ノ適正ヲ期シタリ

然レトモ敵情ノ悪化、民心ノ不安次第ニ増カスルニ伴ヒ兵員勤務繁多トナルニ反シ物資ノ收得次第ニ困難ナリ給養状態曰毎ニ不良トナリタリ

### 五、衛生材料ノ状況

終戦前ノ補給状況ハ輸送ノ困難ニ基キ極メテ不圓滑ニシテ衛生材料ノ愛護節用ト重點使用ニ徹スルモ尙診察ニ困難ヲ伴フタリ加フルニ兵團ハ本年四月滿成以來醫板類ノ補給ヲ携帶囊類モ亦僅少ニシテ衛生勤務上幾多ノ困難ニ遭遇セリ

之カ隘路打開ノ為衛生部員ハ全カヲ傾注シテ自給自給ニ徹シ現地物資資材ヲ利用シ創意工夫ヲ廻ラン以テ診察ノ完璧ヲ期スルト共ニ豫防醫學ノ徹底ヲ計リ又自然療法精神療法ヲ研究シ之ヲ實行ニ移シタリ

(納谷典・京東)

特ニ衛生材料ノ僅少ニ悩ムルハコソアリテ治療劑ナリ

六 被服衛生状況

被服ノ状況

被服類ノ補給ハ輸送ノ困難ニ基キ殆ト實施セラズ

夏衣袴ハ終戰直前一部ノ補給ヲ見タルコトナリ

寢具モ皆無ニシテ幹部ノ一部ニ若干モ存在ス布圍ヲ保有シテリ

シ程度ナリ

然レ共時恰モ炎熱期ナリシヲ以テ大ナル支障ヲ認メサリキ

故帳ハ七月下旬ニ至リ概ネ全毀ヲ收容シ得ル補給ヲ見タリ

軍靴ハ一旅ニ程度不良ニシテ廢品程度トモノ約四割ヲ占ム作戦

討伐ニ於テモ草鞋支那製ヲ利用スル状況ナリキ

又糧食ノ状況

の主食ハ柳縣附近ニ比較的入手容易ナリシモ廣東省境附近迄

ニ兵團東北正面ノ敵來攻地區ニ於テハ入手困難ニシテ柳縣ヨリ

糧秣輸送隊ニ依リテ前送セリ

2、副食ハ兵團警備地區全般ニ入テ困難ニシテ村ニ獸鳥肉ハ終上  
食膳ニ供セサル狀況ナリキ

3、宿舍ノ狀況

宿舍ハ支那民家ヲ改造利用セリ一般ニ煉瓦家屋ニシテ程度良

好ナリキ

4、給水ノ狀況

兵團警備地區一般ニ山嶽地帯多ク良質ノ水汲ヲ得ルノ  
給水ニ大ニ支障ヲ認メリキ

5、氣象ノ狀況

湖南省南方地區ノ氣象ハ七月頃最高ノ氣濕ヲ示シ八月頃ヨ  
リ稍ニ下降ノ傾向ヲ示シ八月中旬頃ヨリ新涼ノ氣ハリ降雨ニ  
際シ肌寒ヲ覺スル程度ナリキ

(結谷典・京東)



蒙三終戦直後ヨリ十月末ニ部

衛生業務要報ヲ以テ既ニ報告済ナルヲ以テ衛生業務要報記  
載事項ハ省畧ス

一、接收ニ關スル渉外事項

兵團ハ十月十五日九江ニ到着シ武装讓渡ノ準備ヲナシ、十七、十八、十九日、  
三日間九江沼飛行場ニ於テ中國第一集團軍ニ武装讓渡セリ

貞岡軍醫大尉ハ讓渡委員トシテ衛生材料關係ヲ担任シ第一集  
團軍王軍醫處長ト兼トシテ折衝ヲ重ネ其衛生材料接收交渉  
ハ極メテ圓滑ニ進沙セリ

兵團衛生材料ノ接收ハ部隊携行衛生材料全般ニ行ハレタリ  
之カ爲メ部隊携行衛生材料ノ品目員數ヲ調査シ「獨立混成第八  
十七旅團衛生材料品目員數表」ヲ作製之ヲ中國側ニ提示シ之ト同  
時ニ衛生材料保留申請書並「借用書」ヲ提出セリ  
又現物ハ九江沼飛行場ニ搬送シ之カ検査ニ供セリ

之ニ對シ中國側ヨリ十月十九日附テ「保留許可書」ヲ送付セラレ都  
區地區駐留間衛生材料ヲ部隊診療ニ使用ヲ許可セラレ以テ接收  
交渉ハ圓滑ニ終了セリ

二内地歸還ニ伴フ衛生諸般ノ處置

ハ自給自活對策

衛生材料ノ補給困難ナル現況ニ鑑ミ衛生材料ノ自給自活ヲ  
強化徹底セントシ兵團内ニ於テ司令部ニ自活指導實施班各  
部隊毎ニ製藥班ヲ編成シ之カ成果向ヒヲ期シアリ

之カ方針トシテ天恵ノ動植物鑛物等ヲ利用活用スルト共ニ漢  
法藥ノ効能製法モ合セ研究シ自隊ニ於テ製造簡易ニシテ  
有効ナル藥劑ヲ製造シ自隊ノ需費ニ供スト共ニ其ノ効用製法  
ヲ普及シ内地歸還後民間藥トシテ利用セシメントシアリ

目下計畫シテル藥劑ハ利尿劑、止痢劑、解熱劑等十五種類アリ  
又製品トシテ五十種類ニ及フ皮膚病藥、止痢劑、利尿劑、健

(精谷與・京東)

胃劍驅蟲劑等ハ既ニ製造利用シアリ

2. 一般傷病、傳染病ノ發生收療狀況

(1) 既ニ報告セル如ク終戰直後八月十六日ヨリ十月末迄ニ發生セル

患者ハ戦死一八、戦傷ニ九、戦病ニ〇五、六名ナリ

傳染病トシテハ、赤痢ニ五名ノ外他ノ疾患ノ發生ヲ見ス

(2) 患者收療輸送ノ狀況 ———— 終戰後柳縣ヨリ都昌ニ至ル

間ノ狀況ハ衛生業務要報ニ於テ既報ナルヲ以テ省略ス

3. マラリア性病ニ對スル處置

(1) マラリア患者ニ對シテハ内地歸還後ノ再發防止ヲ目途トシ内

地歸還待機間ニ徹底治療ノ期シアリ

之カ為メマラリア發病者ノ治療ヲ完璧ナラシムル外、兵團ニ「マ

ラリア檢索班」ヲ編成シ近ク之カ巡回檢索ヲ計画シアリ

(2) 性病患者ニ對スル處置トシテハ既往症ノ調査ヲ徹底セシムルト

共ニ月例身體檢査ニ際シ性病調査ヲ重點トシテ實施セシメ

性病患者ノ治療ハ之ヲ送院シ以テ治療ノ完壁ヲ期シアリ

※患者ノ轉後送

衛生業務要報患者輸送ノ状況ノ項ニ報告セルノ以テ有畧ス

5. 居留民ノ衛生指導

兵團警備地區ニ居留民在ラサルヲ以テ特記事項ナシ

6. 檢疫

兵團ニ於テ未タ實施シアラザルニ復員規定ニ依リて  
基キ之カ實施計畫書ニアリ

(結谷貞・京果)

1796

調製官 陸軍軍醫大尉 眞岡修

昭和三年自九月一日至十月三十一日衛生業務要報

地 都昌縣部  
名 都昌縣部

獨逸兵隊第十七旅團

一部隊行動、概要

一般狀況

兵團ハ八月二十五日湖南省郴縣附近、警備ヲ徹收シ三々様  
 團ヲ以テ粵漢鐵道ヲ北上長沙ニ集結更ニ北進シ長安通  
 過時ヲ以テ第十一軍、指揮下ニ入り十月十五日九江ニ到着  
 中國第一集團軍ニ武裝讓渡、後兵團集結地区タル江西省  
 都昌ニ前進同月二十六日都昌縣南山(都昌東南約二料)ニ集結  
 シ築營作業ニ邁進シアリ

一部隊行動、概要

一部隊主力前進ニ先立テ兵團内ノ弱兵ヲ以テ保育隊ヲ編成シ  
 軍醫將校以下所要ノ衛生部員ヲ附シテ前進セシメ更ニ部隊

ノ行動途上發生セル弱兵ヲ逐次之ニ編入セリ

保育隊ノ前進ハ急メテ自動車・列車船舶等ヲ利用セシメ其ノ行動ヲ容易ナラシメタリ

(2) 部隊轉進ニ際シ郴縣患者療養所(第七ニ兵站病院ノ一部)ノ衛生部員資材並ニ部隊補助担架兵ノ一部ヲ以テ患者收容隊ヲ編成シ行軍途上發生ノ患者ノ收容輸送ニ任セシメタリ  
九月二十日第七ニ兵站病院ノ部ハ指揮下ヲ脱シ原所屬ニ復歸セルヲ以テ爾後ハ兵團衛生部員ヲ以テ引續キ患者收容隊ヲ編成其ノ任務ヲ續行セシメタリ

(3) 來陽ニ於テ教育中ナリシ昭和二十年度初年次衛生兵ハ教育終了シ九月一日來陽ニ於テ部隊ニ復歸セリ

(4) 部隊主力ハ九月一日來陽出發シ三ヶ梯圍ヲ以テ粵漢鐵道ヲ北進シ途上茶溪市・綠口・長沙・新市・長安咸寧・賀勝橋・陽新・瑞昌等ニ於テ糧秣被服等ノ交付ヲ受ケ又長沙・賀勝橋ニ於テ

(續谷東・京東)

衛生材料ノ交付ヲ受ケタリ

(5) 十月十七、十八、十九日部隊ハ九段沼飛行場ニ於テ武装讓渡ヲナシ別續キ都昌ニ前進十月二十六日都昌縣南山ニ集結シ南山北麓東西約三料南北約五〇〇米ノ丘陵地帯ニ宿營地トシテ決定シ目下築營作業ニ全カヲ傾注シアリ

(6) 十月二十日第八十七兵站病院ヨリ患者療養所要員トシテ將校以下十六名ノ配屬ヲ受ケ之ニ兵團ヨリ衛生部員十六名ヲ加ヘ目下療養所開設ノ準備ヲ進メアリ

(7) 十月四日衛生下士官以下十五名ヲ衛生材料受領ノ爲メ武漢地区ニ出張セシメタリ

ニ患者ノ状況

ハ九月十月間戦死傷病發生ノ状況左表ノ如シ

區	分月別	將校	准士官以下	計

マ ラ リ ア		赤 痢		病 名 部隊名	主 要 疾 患 (平病)發生ノ状況(練兵休以上)	計		戦 病		戦 傷		戦 死	
十月	九月	十月	九月	月別		十月	九月	十月	九月	十月	九月	十月	九月
一〇	一五		一	旅司	一	一							
二	二			五四	一	一							
四〇	六八			五五						三			
八一	九九		六	五二	六	九	六	九					
一〇	一三			五二	六	一							
三	四			五八	六	九							
三九	六四	二		旅砲	六	九							
九	四			旅工	六	三							
六	一五		一	旅通	八	三							
三三	四三	二	八	計	九	六				九		一〇	

(納谷典・京東)

1800



3 兵員減耗、 状況	合計	外傷及不慮		外被病		栄養器疾患		呼吸器疾患		戦争栄養失調症		脚氣		陸軍	
		十月	九月	十月	九月	十月	九月	十月	九月	十月	九月	十月	九月		
	二〇	三二	二	二	一	三	二	五	一	三			四		三
	一〇	九					五	六			三	一			
	一〇六	一四九	四	二四	四	一六	三五	二〇	二〇	一四			三		七
	一五〇	一七三			五	七	一五	二二	三三	二四			一六		一五
	一四六	一六八					一〇	二九	二〇	一二	六				七
	六九六	九三九五	一	一九			八	二二					一九		六
	一三三	二一						四		八	一	八	一四		七
	一六六	三七		五	一	三	四	五	一	二			三		五
六〇一	七七七		五〇	一	二九	九五	一二七	七五	五五	二〇	九	六三	六六		

1801

計	其他		戦傷		戦害養兵		脚氣		マダリア		赤痢		病名区分
	入院	在隊	入院	在隊	入院	在隊	入院	在隊	入院	在隊	入院	在隊	
	十九月	十九月	十九月	十九月	十九月	十九月	十九月	十九月	十九月	十九月	十九月	十九月	月別
三							二		一				旅司
四	一											一	五四
七		一			二							三	五五
一一	三				一		三	一	一			二	五六
二七					四	一	三	五			一	二	五七
二												二	五八
五								一				二	旅砲
一八					六	二	一					二	旅塹
一〇	八	二											旅通
八													
七	八	六			一	一	一	二	三	二	二	五	計

(納谷典・東京)

4 患者輸送ノ状況

(1) 患者收容隊

前述ノ如ク患者收容隊ヲ編成シ行軍間ノ患者ノ收容ニ任セ云

(2) 患者集合所開設

來河渡河矣、綠江渡河矣、長沙等ニ患者集合所ヲ開設

シ患者ヲ收容シ爾後船舶列車等ニ依リ患者ヲ輸送ス

(3) 自動貨車ニ依ル輸送

旅團司令部ノ自動貨車ヲ以テピストン式ニ區間輸送ヲ實施

シ以テ患者輸送ノ圓滑ヲ期セリ

(4) 兵團衛生機關ヲ以テ收容輸送セル患者ハ逐次最寄後方衛

生機關ニ送院セリ

三 防疫防瘧ノ状況

ノ防疫ノ状況

行軍間防疫ノ重要ヲ腸管系傳染病特ニコレラ赤痢ノ豫防

ニ指向シ幹部ノ率先垂範ト適時適切ナル部下指導ニ依リ各員ノ防疫識能ノ向上ト個人防疫ノ徹底ヲ計リ以テ防疫ノ完壁ヲ期シタリ

實施ノ主要項目概ネ左ノ如シ

(1) 宿營時便所ノ設置ト野糞ノ禁止

(2) 水ノ使用区分ノ嚴守ト飲料水歩肖ニ依ル監視

(3) 生水生物ノ飲食嚴禁(特ニ統帥系統ニ依リ嚴重ニ監督)

(4) 食器消毒ノ勵行

(5) 中國人販賣飲食食物ノ購入喫食嚴禁

行動間コレラダラス性疾患ノ發生ヲ見サリシモ尙赤痢患者

廿數名ノ發生ヲ見タリ

都昌到着後ハ銳意衛生環境ノ整理ヲ行ヒ衛生諸施設完備ヲ計ルト共ニ防疫軍規ノ強化徹底ヲ期スル一方地方住民間ノ傳染病發生狀況ヲ調査シ又特ニ長江流域ノコレラ流行

陸軍

情勢ニ鑑ミコレノ當地區ヘノ搬入防止ニ勉メアルモ來タコ  
レラノ發生ヲ見ス

(2) 防瘧ノ狀況

行動間ノ防瘧ハ蚊帳ノ使用ト燻煙法ノ實施ヲ重トシキニ不  
僅少ナリシヲ以テ内服法ハ實施セサリシモ冷涼ノ氣次第ニ加  
ルト共ニ蚊族ノ活動衰ヘマリア患者ハ次第ニ減少シアリ  
マリア患者發生狀況左表ノ如シ

計	陳留		新鮮		旅司		旅工		旅通		計
	九月	十月	九月	十月	九月	十月	九月	十月	九月	十月	
一	一		一		一		一		一		一
二	二		二		二		二		二		二
四	四		四		四		四		四		四
八	八		八		八		八		八		八
二	二		二		二		二		二		二
三	三		三		三		三		三		三
一	一		一		一		一		一		一
三	三		三		三		三		三		三
九	九		九		九		九		九		九
四	四		四		四		四		四		四
五	五		五		五		五		五		五
六	六		六		六		六		六		六
三	三		三		三		三		三		三
四	四		四		四		四		四		四
三	三		三		三		三		三		三
二	二		二		二		二		二		二
三	三		三		三		三		三		三
三	三		三		三		三		三		三
八	八		八		八		八		八		八

四 健兵對策ノ狀況

ノ保育兵ニ對スル健兵對策

行動ニ際シ特別訓練兵其ノ他ノ弱兵ヲ兵團ニ於テ一括シ保育  
隊ヲ編成シ主カト別行動ヲ撮ラシメ勉メテ自動貨車、列車、船  
舶ヲ利用シ行動セシメ止ムナク行軍セル際ハ行軍距離ヲ短縮  
シ行軍時間ハ勉メテ早朝夕暮ヲ利用セシメ又負担量ノ輕減ヲ  
計ル等極力温存手段ヲ講スルト共ニ給養ヲ良好セラシメ休養  
ヲ増加スル等各種手段ヲ盡セリ

ス一般兵ニ對スル健兵對策

一般兵ニ對シテハ炎熱期長途連日ノ行軍ヲ要スヘキ本行動ノ特性  
ヲ考慮シ体力ノ消耗防止、平病防止ニ重矣ヲ指向シ幹部以下  
銳意之カ具体策ヲ事前ニ考究シ以テ其實行ニ勉メタリ  
其ノ主ナル事項左ノ如シ  
一 行軍距離一日平均十五料

口行軍ハ毎日少クトモ一〇〇〇ニ終了

ハ一週平均一回ノ休養日ヲ設ク

ニ、勉メテ入浴水浴ヲ實施セシム

ホ、舎營ヲ本則トシ露營ヲ避ク

ヘ、給養ハ主食ハ六〇〇瓦以上ヲ確保、副食ハ現地物資ヲ部隊毎ニ

購入シ給養ノ圓滑ヲ期ス

ト、ビタミンA、球、戦力増進錠等ノ服用

ケ、負担量ヲ軽減シ不急品ハ、勉メテ車輛舟艇等ヲ利用前送

リ感冒並ニ胃腸疾患豫防ニ徹底

3. 結核性疾患発生ノ狀況

行軍間結核性疾患ヲ疑ハシムル患者ニ、三アリ

即時入院セシメタルモ未タ病名ノ決定ヲ見ス

五、衛生材料ノ狀況

ノ一、般狀況

那縣出發時衛生材料ハ概ネニヶ月分携行セリ

行軍途上長沙ニ於テ約一ニヶ月分補給ヲ受ケ又岳州ニ於テ

ホニ一ネ下熱劑ヲ補給ヲ受ケ行動間大ナル支障ナク行動セリ

ニ月末保有量

月末現在ニ於ケル保有量ハゴリア劑約六ヶ月分其ノ他ノ主要  
衛生材料ハ部隊ニ於テハ概ネ一ニヶ月分患者療養所ハ概ネ  
六ヶ月分(患者一ロロ名トシテ)ナリ

3. 目下特ニ補給ヲ要望スル衛生材料ハ左ノ如シ

(1) 器械

齒科囊 耳鼻咽喉器械(少)各一

(2) 藥物

皮膚病治療劑軟膏類 ビタミン劑 祛痰劑 齒科治療藥

酒精、マキニコクマム 健胃錠 皓礬

(3) 消耗品

(納谷貞・京東)



脱脂綿 ガーゼ

現地自活ノ状況

行動間特ニ衛生材料ノ現地自活ハ實施セス

主トシテ繻帶材料ノ再製利用ヲ實施セル程度ナリ

都昌到着後緒方軍醫大尉ヲ長トセル現地自活班ヲ編成自

下具体的實施方策ヲ立案中ナリ

大一般衛生状況

被服ノ状況

行動間使用セシ夏季被服ハ損耗甚シク各種補修手改施スモ求

夏ノ使用ハ困難ナリ

冬衣ハ賀勝橋ニ於テ全員ニ交付セラレシモ冬袴ハ全員ノ割

ニモ満タス又外衾ハ皆無ナリ

軍靴ハ引續キ使用ニ耐ヘ得ルモノハ約二割程度ニシテ他ハ相當

ノ修理ヲ要ス

寝具ハ毛布  
フトンヲ合シニ人ニ約一枚程度ナリ  
又糧食ノ状況

行動間主食ハ軍ヨリノ補給ト部隊ノ購入トニ依リ概ネ一日六  
瓦以上ヲ確保シ副食ハ部隊ノ現地物資購入ニ依リ概シテ給養  
ハ良好ニ保持セラレタリ

都昌到着後ハ主副食共中國側ヨリノ補給ヲ受ケアリ

主食ハ概ネ一日六  
瓦程度副食ハ野菜比較的豊富ナレドモ動  
物性食品極メテ僅少ナリ

之カ爲メ目下旅團ニ於テ魚類ノ蒐得ヲ計画シアリ

又野菜ノ一部モ自隊農園ニ於テ收穫スヘク計画中ナリ

3. 宿舎ノ状況

行動間ノ宿營ハ一部露營セルモ大部ハ民家ヲ利用セリ

都昌到着後ハ民家ハ全然使用セズ

目下南山北麓ニ仮兵舎ヲ構築シ宿營シアルモ速カニ本格的矣

東京・小津稿

舎ヲ構築スル爲メ中國側ノ協力ヲ得テ<sup>殊</sup>竹藁ノ蒐集ニ努力シテ  
來月中旬概成ノ予定ナリ

本宿營地ハ北ニ平野ヲ控ヘ南ハ山嶽ニ面シ衛生的見地ヨリスレハ  
好適ノ地ト云ヒ難キモ民家ト隔絶シヤリ又丘陵地帯ナルヲ以テ  
排水等一般ニ良好ナリ

4 給水ノ狀況

行動間ハ地區間ノ河川水井水等ヲ利用セリ

都昌城外ハ鄱陽湖ニ通スル湖沼多ク水便良好ナルモ減水期ニ

入リテ急激ニ水ノ減少ヲ見目下ノ狀態ニ於テハ宿營地附近給

水ニ極メテ不便ヲ豫想セラレアリ

部隊ニ於テ鑿井或ハ山嶽ヨリノ流水ノ誘導等ヲ計画シアリ

5 氣象

九月間氣象タ高ク行軍ニ支障甚カラサリシモ十月ニ入リテ新涼  
ノ氣加ハリ夜間特ニ氣温低ク寢具藁等ナクシテハ睡眠ニ支

障ヲ來タス程ナリ

七、其ノ他参考トナルヘキ事項

武漢地區ニ衛生材料受領ニ派遣セシ衛生下士官以下ハ輸送ノ關係其他ヨリ武漢地區部隊轉屬ヲ命セラレ從ツテ該衛生材料ノ入手不能トナレリ

陸軍

獨立旅營第一二號 昭三三三六 調製官 陸軍軍醫大尉 眞岡 修

昭和三年十月 衛生業務要報

地 名 都 都 江 西 省 都 都 昌 縣 隊 昌 縣 隊 名

獨立混成旅團

一部隊行動の概要

一般状況

兵團の都昌縣南山麓ニ位置シ築營作業並ニ現地自活作業

ニ從事シアリ 宿舍、主要建築物ハ概ネ完成シ目下附屬建物

ノ建築ヲ進メアリ

現地自活作業ハ耕地作業、外養鶏、養豚、漁撈、製鹽等十二班

ノ現地自活班ヲ編成シ築營作業ト平行シ逐次事業ノ擴充強化ヲ

計リアリ

る部隊行動の概要

の一日高級軍醫會同ヲ實施シ築營ニ伴フ衛生諸施設ノ着眼事

項ヲ教育セル後兵團宿營地ヲ巡視シ現地指導ヲ實施ス

- (12) 自十一日ヲ驅風旬間トシ兵團一齊ニ驅風ヲ實施シ司令部ヨリ緒方大尉ノ指揮スル指導班ヲシテ各部隊ヲ巡回指導セシム爾後毎週概ネ一回ノ割合ニテ驅風作業ヲ實施セシム
- (13) 五日患者療養所ノ收療業務ヲ開始シ兵團ヨリ衛生下士官以下大  
名ヲ療養所ニ勤務セシム
- (14) 都昌縣長ノ要望ニ依リ都昌縣城内ニ民衆診療所ヲ開設十五日ヨリ  
毎週二回診療業務ヲ實施ス
- (15) 二十日兵團長、築營作業巡視並ニ創意工夫発表會ヲ實施ス  
眞岡大尉隨行ス
- (16) 二十五日ヨリ三日間軍司令官、築營狀況ノ視察ヲ受ク
- (17) 二十八日患者療養所收容患者三十九名ヲ九汲第一七七兵站病  
院ニ後送ス
- ニ患者ノ狀況
- ノ月間發生セル戦死傷病ノ狀況

(精谷真・京東)

(1) 月間戦死傷ナシ

(2) 主要戦病発生ノ状況左表ノ如シ(練兵休以上)

計	其 他	外 傷 及 不 慮	外 被 病	榮 養 器 病	呼 吸 器 病	循 環 器 病	榮 養 失 調 症	脚 氣	マ ラ リ ア	赤 痢	病 名 別
一八	一	一		二	一			二	一		旅司
一七	三	二		三	二	一		五	一		五
七五	二	二		三	一〇			五	四		五
一三九	三五		三		一九			二	八		五
四八	五			八	五				三		五
八八				二	四		三	大	四		五
六六	一		二	四				三	四		旅砲
三五	九		二	一	一		四	一	一	二	旅工
二五	一			四				七	三		旅通
二				二							憲務
四				四							配兵
六〇	七八	五	七	七	五	一	七	二	三	二	計

陸軍

之兵員減耗ノ状況

月間兵員減耗ノ入院患者中月間判明セルヲ含ム左表ノ如シ

病名	旅司		旅砲		旅工		旅通		患所		計
	入	在	入	在	入	在	入	在	入	在	
赤痢	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	3
チフス	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2
マラリア	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	3
回歸熱	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
結核性疾患	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
脚氣	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	4
栄養失調症	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2
栄養器病	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	5
其他	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	3
計	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	9

3. 患者輸送ノ状況

(納谷典・京東)



二十八日軍司令官帰隊時、船舶ヲ利用シ三十九名ヲ九江第一七七兵站病院ニ後送セル外患者ノ輸送ナシ

三防疫並ニ防瘡ノ状況

ノ防疫ノ状況

月間防疫ノ重矣ヲ腸管系傳染病並ニ回帰熱ノ豫防ニ指向シ了之カ爲實施セル主要事項左ノ如シ

- (1) 宿營地周辺ノ淨化作業
- (2) 野戰防疫便所ノ計畫設置
- (3) 飲料水源ノ收得並ニ保清  
即チ溪流ノ誘導井戸構築ノクリーク水ノ使用区分嚴守等
- (4) 中國人トノ接觸禁止  
之カ爲縣側ト連絡シ中國人ノ宿營地区立入並ニ食品ノ販賣ヲ禁止スルト共ニ兵員ノ城内並ニ中國人部落ヘノ立入及食品ノ個購買飲食ヲ禁止ス

(5) 下痢患者ノ監理並ニ赤痢疑似患者ノ隔離入院處置

(6) 駆虱旬間ヲ定メ兵團一斉ニ虱ノ駆除ヲ勵行セル外爾後毎週少クトモ一回被服、寢具等ノ消毒ヲ實施セシム

(7) 有熱患者ノ檢血ヲ實施シ回歸熱、スピロヘーターノ有無ヲ精査

(8) 縣側機關並ニ民衆診療所ヲ通シ地方住民間ノ傳染病發生

狀況ヲ精査

月間コレラ腸チフス、回歸熱等ノ發生ヲ見サリシモ尚赤痢患者ニ名ノ發生ヲ見タリ

之等患者ハ即時入院隔離セシムルト共ニ發生中嗽ニ對シ第三期予防處置ヲ實施シ續發防止ニ勉メアリ

防瘧ノ狀況

氣温ノ低下ト共ニ蚊族ノ活動停止シマラリアノ新患ノ發生ヲ見サルニ至リシモ疎回マラリアハ依然散發シ平病ノ第一位ヲ占メアリ之等患者ニ對シテハ完全治療ヲ施シ以テ再發ノ絶無ヲ計リ

(納谷貞・東京)

内地帰還後マラリア流行防止ヲ期シアリ

治療法ハマラリア劑保有量ヲモ考慮シ目下總軍十日療法ヲ實施シ

アリ

月間發生セルマラリア患者左表ノ如シ(就業以上)

區分	部隊別	旅司	五	四	五	一	五	一	七	五	一	八	旅砲	一	七	三	四	所患	患配	患屈	計	
マラリア	四	四	七	八	六	三	八	〇	九	八	一	九	五	五	一	一	七	三	四	〇	六	六
新鮮マラリア																						

四 健兵對策ノ狀況

ノ一般兵保育ノ狀況

保育ノ重莫ヲ限ラレタル資材ト物資ヲ最大限度ニ活用シ休養給養ノ適正合理化ヲ計ルト共ニ積極的ニ体力ヲ鍊成シ健全ナル精神ノ育成ト相俟ツテ全將兵ヲシテ皇國復興ノ中核タラシムル强健ナル心身ヲ養成スルニ指向ス之ヲ爲實施シアル主要事項左ノ如シ

(1) 現地現況ニ即應セル衛生的ナル兵舎ノ築營

特ニ風向採暖採光排水ニ留意

(2) 兵舎<sup>健康</sup>建築作業ヲ以テ体力ノ練成職業輔導復興精神ノ鍛練ニ資セシム

(3) 中國側ヨリ補給ノ主副食ヲ最大限ニ活用シ創意工夫ヲ凝ラシ榮養食ノ給與ニ勉ムルト共ニ内地帰還後僅少ナル物資ヲ以テ良好ナル給與ヲ得ルノ資タラシム

(4) 毎日曜日ヲ休養日トシ演藝會ヲ開催シ心身ノ休養ヲ與フルノ外野球ピンポン排球等ノスポーツヲ獎勵シ慰安並ニ体力ノ練成ヲ計ラシム

ニ 結核性疾患發生ノ狀況

結核性疾患ノ發生防止ニ関シ各級幹部ハ特ニ留意指導シテ之カ爲實施シアル主要事項概ネ左ノ如シ

(1) 兵舎ノ採光ヲ可良ナラシム

(精谷典・京東)

(乙) 兵舎ノ塵芥防止

之カ爲メ敷藁ヲ莫菴式トシ晴天日ノ日光曝干並ニ塵芥除去ニ至便セラシム

(3) 就寢時マスクヲ装着

(4) 含嗽、乾布磨擦ノ勵行

(5) 有熱咳嗽喀痰アル者体重漸減者榮養失調者等ノ特別整理

(6) 結核性疾患疑似者ノ早期隔離

二、三ノ部隊ニ於テハ中隊毎ニ保育班ヲ編成シ 特ニ結核性疾患質アル者ニ對スル保育ノ適正ヲ期シアリ

五 衛生材料ノ狀況

ノ一般狀況

衛生材料ハ極力愛護節用ニ勉メ重矣使用ニ徹スルト共ニ天恵ノ動植物鑛物ヲ最大限ニ利用シ自活ノ道ヲ講シアルモ携行衛生材料ハ次第ニ消費シ盡サレ現保有量極メテ僅少ニシテ月

未保有量ハ一月分内外ヲ餘スノミナリ  
又目下特ニ補給ヲ要望スル衛生材料ハ左ノ如シ

(1) 器械

齒科囊 耳鼻咽喉器械(少)各一

(2) 藥物

皮膚病治療劑(特ニ疥癬治療劑)

軟膏類 解熱劑 祛痰劑、ビタミン劑

酒精 沃度丁幾、マキエロクローム健胃劑

(3) 消耗品

脱脂綿、カーゼ 繃帶

3. 現地自活ノ狀況

現地自活ノ爲メニハ司令部ニ指導班、各部隊ニ實施班ヲ編成シ野  
草木ノ蒐集製藥ニ努メアル外硫黄 脂油類等ヲ購入シ軟膏類  
皮膚病治療劑ヲ製造シ利用シアリ

(葛谷典・京東)

現地自活製品ハ其ノ効果概ネ良好ナルモ現地ニ於テ蒐得シ得ヘキ野草木ノ種類僅少ナルト原料購入費ノ入手困難ナルハ目下隘路ナリ

六一般衛生狀況

被服ノ狀況

冬被服寝具ハ軍ヨリノ補給ニ依リ逐次充實シ來リ冬衣ハ概ネ全員ニ冬袴ハ七割程度ヲ保有シアリ

冬外套ハ約一割程度ナリ

毛布ふし之ハ征部隊ヨリノ補給ヲ得レハ兩者合シ概ネ各自一枚程度ニナル予定ナリ

軍靴ハ駐留間ノ使用ヲ嚴禁シ草鞋草履、代用縮上靴ヲ作製使用シアリ

軍靴ハ瘡品程度ノモノ概ネ二割程度ナリ  
糧食ノ狀況

糧食ハ主副食共中國側ヨリノ補給ヲ受テアリ

主食ハ一日概テ六五〇瓦程度副食ハ野菜ヲ主トシ獸肉ハ概シテ僅少ナリ

部隊ノ現地自活班ノ作業ハ漸緒ニ付キシ程度ニシテ未タ糧食トシテ利用スルニ至ラス

食塩又極メテ少ク一日十―十五瓦程度ナリ

味噌醬油ノ補給並ニ保有ナク部隊ニ於テ之カ製造ヲ企圖シテ<sup>3</sup>宿營ノ狀況

宿舍ノ建築ハ附屬建物ヲ除キ概要セリ

建築資材ハ松材竹藁草ヲ主トセル材料僅少ナル上地形並ニ宿舍ノ構造上採暖ニ充分ナラサルヲ以テ目下藁壁ヲ土壁ニ改造ヲ計畫シ既ニ一部實施シアリ

<sup>4</sup>給水ノ狀況

目下減水期ナルヲ以テ給水源ハ一般ニ宿舍ノ近傍ニ得難シ

(納谷英・京東)

1824



各部隊ハ溪流ノ誘導鑿井ヲ計畫逐次實施シアリ

減水湖ニ於ケル新製井水ハ比較的量多キモ混濁度大ニシテ飲料水トシテ利用スルニ適過ヲ要ス

ク氣象ノ狀況

月間晴天多ク氣候一般ニ温暖ニシテ宿舍ノ建築ニ極メテ惠マレタリ

下旬ニ至リ降雨ヲ見次第ニ氣温ノ低下ヲ示シアルモ未ダ酷寒ト謂フニ至ラス

然レトモ當駐留地ハ地形上北風ヲ受ケ易ク冬期ハ酷寒ヲ予想セラル

七 接收ニ關スル渉外事項

月間特記事項ナシ

八 内地歸還ニ伴フ衛生諸般ノ處置  
ノ自給自活對策

兵團ニ於テ各種専門技術者ヲ動員シ十二ヶ班ノ自活班ヲ編成シ技  
 術者ノ特技ヲ鍊磨スルト共ニ之ヲ一般ニ普及シ内地帰還後自  
 給自足ノ一助タラシメ得ルノ技能ヲ附與シ更ニ凡ニ困難ヲ打開  
 シテ實行ニ現ス不屈不撓ノ精神ヲ涵養スルヲ目途トシ着々  
 實施シアリ其ノ收獲或ハ製作品ハ直々ニ兵員ノ給養向上ノ資ト  
 シム如ク計畫シアリ  
 十二ヶ班中ニハ製藥班及野草研究採集班アリ  
 夫々軍醫將校ヲ長トシ既ニ作業ヲ進捗セシメアリ  
 製藥班ノ製品ハ部隊ノ診療ニ利用スルト共ニ製法簡易ニシテ  
 家庭藥トシテ至便ナルモノハ之ヲ普及シ以テ内地ニ於ケル藥劑  
 不足ノ缺ヲ補ハントシアリ  
 又一般傷病傳染病ノ發生收療ノ狀況  
 (1) 傷病傳染病ノ發生ノ狀況  
 患者ノ狀況ノ項ニ既述ノ如シ

(箱谷與・京東)

(2) 患者收療ノ状況

五日患者療養所ヲ開設シ患者ノ收療ニ任セシメアルモ療養所ノ現象屋ハ狭少ニシテ收容力僅カニ五〇名程度ナルヲ以テ目下之カ増築ヲ實施シアリテ來月中旬完成ノ予定ナリ  
 該建物完成セハ約一五〇名收容シ得ル予定ナリ  
 月間患者療養所ニ收容セル患者左ノ如シ

區	分員	數	摘	要
外科的疾患		九		
内科的疾患		四四	死七	九
傳染病		三三		
計		八六		

3. マラリア性病患者ニ對スル處置

(1) マラリア患者ニ對スル處置  
 兵員中、マラリア患者及同保有者ノ摘發並ニ完全治療ノ爲

メマリア原虫検査班ノ巡回ヲ計画シ來月上旬ヨリ實施ニ定ナリ  
マリア患者並ニ原虫保有者ニ對シテハ目下總軍法十日療法ヲ  
實施シアリ

乙性病患者ニ對スル處置

性病患者ノ摘発ハ月例身体検査時細密ニ實施スル外既往  
症ヲ調査シ性病患者発見セハ直ニ送院シ完全治療ヲ期シアリ  
4患者ノ轉後送

既述ノ如ク月間患者ノ後送ハ三十九名ナリ

5居留民ノ衛生指導

兵團駐留地ニハ居留民在ラサルヲ以テ衛生指導ナシ  
6検査

兵團ニ於テ検査ハ實施シアラサルモ傳染病ノ搬入防止ヲ期シ都昌  
地区ヘノ轉入者帰隊者ニ對シテハ各部隊毎ニ身体検査被服  
ノ消毒ヲ實施シアリ

(精谷典・京東)